

相馬ジャーナル

Souma Journal

October 2023 No.1



僕の夢 私の夢

相馬小学校校長

工藤直樹（くどうなおき）さん

夢は小さくても、変わってもいい
子どもたちが夢を語れる学校、地域に！

弘前市スポーツ少年団の野球担当として、相馬球場をよく利用していました。球場の鍵を借りるのに立ち寄る公民館に展示してあった、相馬村内の縄文遺跡である湯口長根と一ノ下り山の二つの遺跡の出土品が印象に残っていました。子どもたちには地域の文化財に触れ、地域に興味をもってほしいと思い、市の文化財課から出土品を借り、「ひろさき卍学」の一環で十月末まで校長室に展示しています。

小学生のとき、野球の練習中にグラウンドから鍬（やじり）を見つけたり、当時、高速道路建設予定地の発掘現場に仲間とこっそり入って見学（！）したりしたことが、歴史に興味をもつきっかけになったのかもしれない。大学進学後、考古ゼミに所属。現在までの教員キャリアには、県の埋蔵文化財センターに異動し、三内丸山遺跡の発掘調査に携わったことも。小さい頃の興味が、大人になつてからの仕事や関心に繋がっています。



（談）

相馬に暮らす、相馬で働く面白い人、頑張ってる人、楽しい人を紹介！



紙漉沢獅子舞保存会
新会長に就任！

成田達也（なりた たつや）さん
いいものは残していく。
そのための営業会長でいい！



紙漉沢獅子の獅子頭は鹿獅子山の場面と川の場面、2通りのパターンを持つのも紙漉沢ならではの特徴だ

さる九月十六日に開催された紙漉沢獅子舞保存会の定例総会で、勇退する前会長の成田馨さんから新会長に指名された。「突然のことだったの、驚いてしまいました（苦笑）。いろんな組織の長をやらせてもらって人脈も広いところを評価していただいたかもしれないですね」。人脈の広さもさることながら、前会長は人望の厚さも認めていたに違いない。でなければいろんな「長」は務まるまい。

一九六五年生まれの五十八歳。実家のリングゴ農家を継いだのは二十六歳の時だが、生まれてから紙漉沢で暮らし続けている。「意識したことはあまりありませんが、出ないというところは紙漉沢が、相馬が好きなのでしょう」。その紙漉沢で誇れるものの一つが、獅子舞だ。

藩政時代、御前の競演会で他地域が意気込み派手さを強調する中、紙漉沢は冷静に自分たちの普段通りの舞いを披露し、讃えられたと伝わる。「品のある気高い舞いが評価された」と聞きます。それが現代にも残る紙漉沢の舞いの特徴かもしれません。

かつては相馬に四組あった獅子舞もいまや紙漉沢のみ。相馬唯一の獅子舞も高齢化が進み、踊り手不足で存続の危機に瀕している。

「素直に、いいものは残していきたい。そのためには『営業会長』と揶揄されてもいいので（笑）、これまで以上に獅子舞をアピールしていきたい」と思います。獅子舞で相馬の子どもたちや住民たちを元気づけられるようにしたいですね

～掲示板～

紙漉沢獅子舞保存会会員大募集！
藩政時代から続く伝統文化である獅子舞。五穀豊穡や悪疫退散、家内安全、集落繁栄を願って舞い踊る伝統的な芸能を受け継ぐ紙漉沢獅子舞保存会が、会員を大募集しています。相馬村時代には町会ごとにくっついた保存会も、いまや残っているのは紙漉沢だけ。伝承によれば、その昔、紙漉沢獅子舞は藩主の前で獅子舞を披露し、礼儀正しいとほめられご褒美をもらったといわれています。そんな格式高き獅子舞を次代へとつないでくれる人をお待ちしています。年明けには、相馬中学校での披露会も計画中。興味ある方は奮ってご参加ください。お問い合わせは、
・成田達也（会長）：090-9635-5706
・田中茂：090-7060-5496
のどちらかまで。

相馬凸凹学会員を大募集！
地域おこし協力隊の加賀新一郎は、このたび、相馬地区の歴史を楽しまながら学ぶサークル「相馬凸凹学会」を立ち上げました。学会といってもとくに規約や入会資格のようなものはなく、各人がそれぞれ興味のあるテーマを研究あるいはフィールドワークで調査し、その結果を語り合うようなゆるい任意団体です。すでに五名の方が新たに入会しています。ご興味のある方は、奥付にある協力隊直通電話か直通メールにご連絡ください。ゆくゆくは、相馬ぶらり歴史散歩のようなイベントも実施したいと思っています。

訂正とお詫び
2023年7月11日発行『相馬ジャーナル 創刊準備号』内「特集 相馬のはじまり」の記事中2ページ目上段後ろから10行目と下段後ろから4～5行目の「弘前市に編入」は誤りでした。正しくは「弘前市と新設合併」です。ひとえに編集部の勉強不足による誤りです。お詫びして訂正いたします。申し訳ございませんでした。
(『相馬ジャーナル』編集部・加賀新一郎)

SOUMA NEWS

相馬で起こったあんなこと、こんなことを一挙掲載!!

星と森の ロマントピアで 『SHIROFES.2023』 開催!



国内最大級のダンスの祭典『SHIROFES.2023』が、6月30日（金）～7月2日（日）、昨年に引き続き星と森のロマントピアで開催され、多くの人でにぎわいました。津軽笛奏者・佐藤ぶん太さんやDJのD.I.Kさんといった相馬出身のアーティストもパフォーマンスを披露し、喝采を博していました。

県外からのツアー客が 相馬ねぶたを体験!!

弘前に関わる関係人口を創出するプログラム「Entre! (アントレ)」の参加者のうち3名の方が相馬を訪問。7月30日（月）に相馬ねぶたの町内運行に、8月2日（水）には土手町運行に参加しました。また、7月31日（月）に協力隊のアテンドで相馬地区内を見学しました。



町内運行では協力隊とともに先頭に（写真提供：米山竜一）

地域めぐりでは、今祐介さんのりんご農園も見学

相馬ねぶたが弘前市長賞を受賞!

7月30日（日）の町内運行を皮切りにスタートした令和5年度のねぶた。規制が緩和され久しぶりに本格開催となった合同運行では、8月2日（水）に審査運行が行われ、われらが相馬ねぶたが見事、弘前市長賞に輝きました。福嶋直人会長以下相馬ねぶた愛好会の面々の奮闘に加え、相馬地区の皆さんの積極的な協力・応援が実りました!



久しぶりの本格開催とあって相馬の子どもたちも大勢参加（写真提供：米山竜一）



夕間に浮かび上がる“相馬”（写真提供：米山竜一）



7月上旬から熱心に練習を続けてきた中学生のお囃子隊も、市長賞受賞に貢献!

相中祭が久々に本格開催!

相馬中学校の文化祭「相中祭」が9月2日（土）、3日（日）に開催されました。2日は午後5時からねぶたを運行。3日は体育館で英語劇や落語、ダンスなど相中生がそれぞれの個性や特技を生かしたパフォーマンスを披露し、会場を沸かせていました。澆刺とした相中生の姿に、相馬の明るい未来を予感した人も少なからずいたのではないのでしょうか。



お山参詣、4年ぶりに団体参拝!

五穀豊穡、家内安全などを願い岩木山に参拝するお山参詣が、9月14日（木）、相馬有志会（中澤圭一会長）の主催で行われました。感染症の影響で団体参拝が実施されるのはじつに4年ぶり。雨が心配されましたが、幸い、岩木山神社での参拝を終えるまで何とか持ちこたえ、無事参拝を終えました。残念ながら年々参加者は減少傾向にありますが、この日も一般参加者数名が加わり、早朝から相馬地域内を練り歩きました。



なかには県外からの参加者も（上写真は東奥日報提供）

地域おこし協力隊 活動通信 6～9月

●六月二十五日(日)
相馬球場で五年ぶりに開催された相馬地区ソフトボール大会に、運営スタッフ兼選手として参加しました(加賀、穂坂)。

●六月二十九日(木)
移住応援サイト『弘前ぐらし』の市民ライターに任命され、任命式に出席してきました(穂坂)

●七月一日(土)、二日(日)
星と森のロマンティックピアで開催されたダンス・イベント「SHROFES2023」の取材に行ってきました(加賀、穂坂)。

●七月七日(金)
JA相馬村青年部の総会にオブザーバーとして参加しました(穂坂)。

●七月十一日(火)
『相馬ジャーナル』創刊準備号を各町会長のお宅に搬入いたしました(加賀、穂坂)。

●七月二十四日(月)～二十六日(水)
夏休み宿題助け隊に講師として参加し、子どもたちの宿題のお手伝いをしました(穂坂)。

●七月二十八日(金)
相馬地区社会福祉協議会主催の世代間交流事業に参加し、こけしづくり、ボッチャをお年寄りや子どもたちと楽しみました(加賀、穂坂)。

●七月三十一日(月)
ねぶた体験ツアーに県外から参加された三名の方に相馬地区をアテンドしました(加賀、穂坂)。

●七月三十日(日)、八月二日(水)、四日(金)、六日(日)
久しぶりに本格開催となった弘前ねぶたの合同運行に参加しました(加賀、穂坂)。

●八月二十九日(火)
市が企画し「まちなかキャンパス」が運営したインターンシップ企画でロマンティックピアに滞在した県内外の学生さん十名の方に相馬地区を案内しました(加賀、穂坂)。

●九月十四日(木)
四年ぶりに団体参拝が行われたお山参詣に参加しました。穂坂隊員は事前練習を重ねて、大旗を担当しました(加賀、穂坂)。



1984年、昂生まれ。高校卒業後、大工志望だったが農業法人に就職。16年勤務したのち独立。趣味は、旧車・外車、ファッション、人と呑みながら他愛のない話をする事。



自分のりんごを自分の責任で自分で売れるように！
今祐介(こん・ゆうすけ)さん

「一人でやっているとしても、何だかんだいって、結果、ちよūdよく後輩とかみんな来てくれる。たんげえ恵まれてる」
農業法人からの独立を後押ししたのは、相馬の先輩だった。就農に関する手続きやスプレーヤーの購入も一緒にしてくれた。作業が追い付かなくなると、後輩が協力してくれる。相馬でりんごを作るよさは、仲間からの手厚いサポートだ。今もいろいろな人が気遣ってくれている。
「最終目標は、法人化して自分で作ったものを自分で売れば一番いいかな」
大きいりんご、いいりんごを作り、自分の名前で、自信をもって、責任をもって消費者に届けたい。「今祐のりんごいいな」と言われたい。そのための法人化。相馬の仲間と実現させたいと夢を語った。

相馬地区広報誌
相馬ジャーナル

October 2023 No 1

◆発行者
相馬地区地域おこし協力隊
〒036-1592
青森県弘前市大字五所字野沢41番地1(弘前市相馬庁舎)
電話: 090-3102-6110(地域おこし協力隊)
0172-84-2111(代表)

e-mail: souma.chiikiokosi@gmail.com (地域おこし協力隊)

◆編集
相馬地区地域おこし協力隊(加賀新一郎、穂坂修基)

◆発行日
2023年10月11日 ※表紙写真提供: 米山竜一

大募集!
皆様のご意見、ご要望、取り上げてほしい人やイベント、告知したいことなどを大募集しています。左記、協力隊直通電話かメールアドレスまでご連絡ください。



弘前市相馬地区公式WEBサイト



穂坂隊員 Instagram



加賀隊員 Instagram